

2022年度農林水産省行政事業レビュー(公開プロセス)の結果

女性が変わる未来の農業推進事業

<評価結果>

「事業内容の一部改善」

◇ 評価結果

現状通り	1名
事業内容の一部改善	5名
事業全体の抜本的な改善	0名
廃止	0名

<取りまとめコメント>

○事業の課題や問題点

- ・レビューにおける一連のプロセスを通じて、ロジックモデル等も改善され、事業が実現すべきアウトカム(短期、中期、長期)がより明確に示されるようになった。この間の担当課の努力は大いに評価したい。
- ・これまでの事業を通じた知見を踏まえ、女性農業者のみを対象とするのではなく、相談会等の実施によって、男性の意識や環境を改善していく施策への取り組みを企図しており、この点も評価できる。
- ・女性のみではなく、男性含め、農業従事者全体の意識を変えていくこと、農村全体に対する利益になることの共通認識を持つことが重要である。
- ・これまでの事業によって構築されたネットワークに対するフォローアップも積極的に実施して行ってほしい。実態把握を踏まえた上でのことだが、効果検証を踏まえた事業のさらなる充実も検討すべきではないか。
- ・抽象論としては全くそのとおりの事業目的であり、問題となるのは測定指標と思われる。女性の活躍、参画の度合をどう測定するかは難しい問題である。
- ・どのような人間を何年で何人くらい育てて確保したいのかが不明確。
- ・短期アウトカムと中期アウトカムのつながりのロジックが弱い。
- ・「女性農業者の確保・育成」と「女性リーダーの育成」という大きな目標が二つあるが、切り分けた方がよい。

・リーダー研修は、研修を行うこと自体が目的化しているように思われる。新規の募集を行うのか、すでに農業に従事している女性から一定年数をかけて育成するのか、方針が明確ではない。いずれにしても、短期的には育成ができるものではなく、研修後のフォローアップが必要。研修がよかったかどうかのアンケートだけではなく、研修を受けた人がその後どうなっているか、そのフォローアップとして必要なものを把握する必要がある。

・家族経営協定締結自体をゴールや他の目的達成のためのツールとすることなく、締結に向けたプロセス及び協定内容の継続的な実現を重視する必要がある。

○事業の改善の手法や見直しの方向性

・男性の理解・行動の不足といった現状見えてきた課題を踏まえた新たな施策に取り組むに当たっては、現状設定しているKPIにとどまらず、課題解決に直結する(意識の改善だけではなく、実際の男性の家事負担の増加が肝要)実態の把握ができるよう、事業設計と調査・評価設計を一体として進めていくべき。

・どのような指標で事業効果を測定するか、継続的な見直しを進める必要があると思われる。

・各団体・組織に、将来的にどのような能力を持つ担い手を何年かけて育成していくのか、その目的のために、切れ目のない研修やネットワークを構築させるための予算執行になっているのかを明確に分かるようにしていただきたい。

・老若男女問わず、性別によらず、将来を担うリーダーを育てる環境を整えるために予算執行がされているか、モニタリングをするとともに、国民から見てもそれが分かるようにしていただきたい。

・R4年度から実施されているメニューもあり、評価は難しい。メニューが拡大していく中で、ターゲットも曖昧になっている。適切なモニタリングが必要。

・地域内外の組織との連携を通じて女性の能力向上を図るべき。

・夫婦や家族による経営、または、夫妻のうち一方が農業に従事し、他方は全く異なる外部での業務に従事する等、多様な選択肢がある。男女かかわらず、自ら主体的にいずれの選択もできる社会に結び付けていくことを願う。